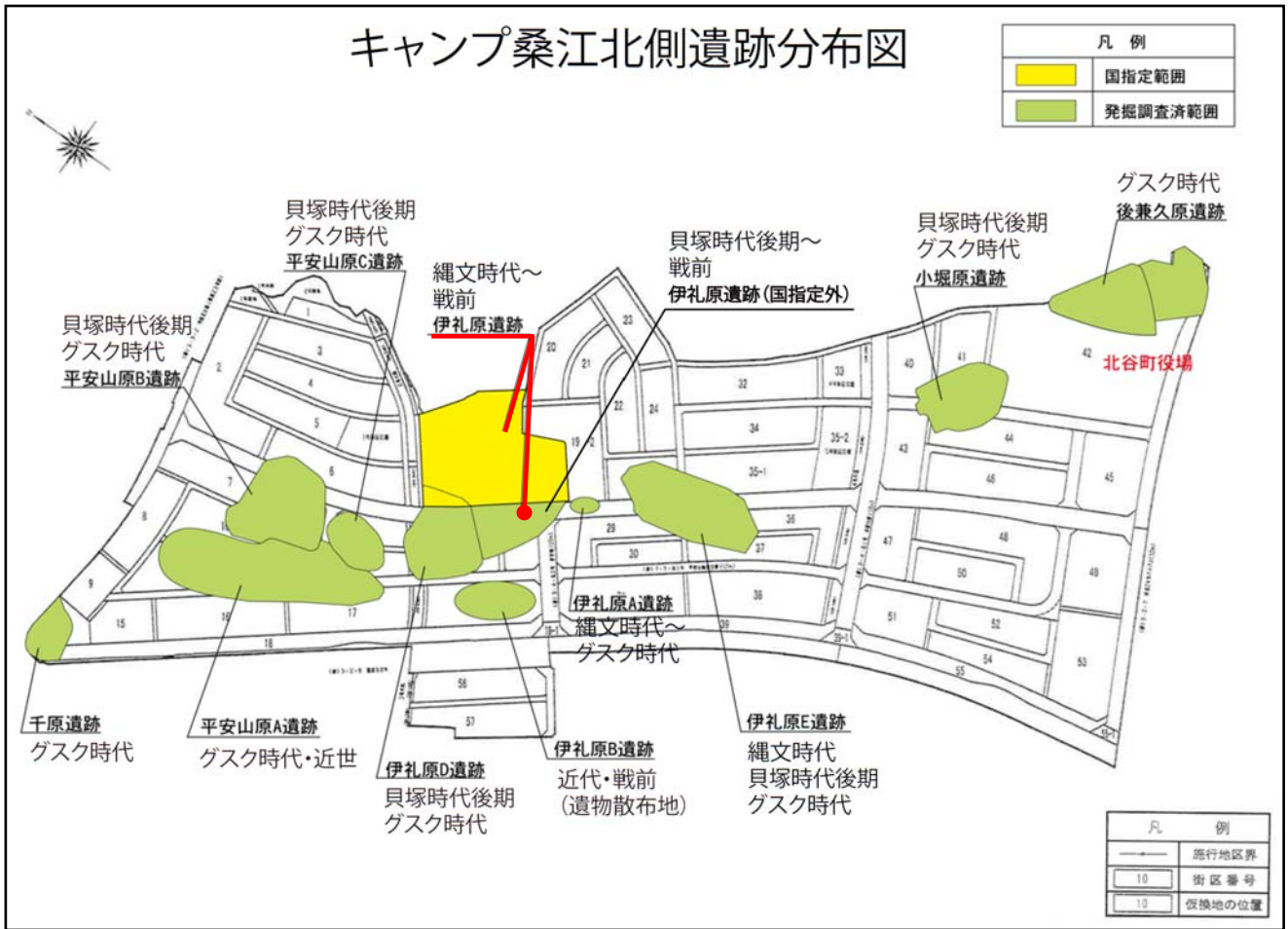


<p>地区名</p>	<p>くわえきたがわちく キャンプ桑江北側地区における <small>いれいばるいせき</small> 伊礼原遺跡（北谷町）</p>	
<p>文化財の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伊礼原遺跡は、縄文時代前期から晩期に及ぶ集落跡であり、長期にわたる生活様式の変遷が迫える遺跡は奄美・沖縄地域では類例がなく、原産地が特定されるヒスイ製の玉等の存在は、縄文時代における日本列島本土との交流を考えるうえで極めて重要であり、奄美・沖縄地域を代表する拠点的な集落遺跡として位置付けることができる。 米軍基地返還に伴う区画整理事業に先立ち、試掘・確認調査を実施したところその重要性が明らかとなり、平成 22 年 2 月には国の史跡指定を受け、遺跡公園・博物館の整備が計画されている。 	<p>写真 伊礼原遺跡</p>
<p>事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡敷地面積約 17,000 m²の復元整備を図るとともに、遺跡の資料を中心に、町内に点在する歴史的資料、文化財を展示した遺跡博物館を隣接地に建設し、一体的利用が図られる予定である。 平成 16 年度には、遺跡保全整備基本構想を策定し、国指定に向けた具体的な取組み、区画整理事業を含む周辺計画との関連性・整合性が示された。 平成 25 年度には、遺跡保全整備基本構想や保存管理計画に位置づけた遺跡博物館について、基本理念及び整備方針、施設整備基本構想（施設の機能・配置・概算事業費の検討）、管理運営等について取りまとめられた。 	
<p>事業の特徴</p>	<p>○整備手法・事業費等</p> <p><u>遺跡公園整備</u></p> <p>平成 23 年度：用地取得（面積 16,127 m²）1,404,729 千円（文化庁事業 8 割補助） 平成 25 年度：用地取得（面積 829 m²）72,222 千円（文化庁事業 8 割補助） 平成 27 年度(予定)：基本設計（沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討） 平成 28 年度(予定)：実施設計（文化庁事業の活用を検討） 平成 28 年度末～30 年度(予定)：建設工事（沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討） 平成 31 年度(予定)：公開</p> <p><u>博物館整備</u></p> <p>平成 24・25 年度(予定)：用地取得(面積 6,078 m²)(沖縄振興特別推進交付金事業)) 平成 25 年度：構想及び計画（沖縄振興特別推進交付金事業） 平成 26 年度（予定）：構想及び計画継続実施（沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討） 平成 27・28 年度（予定）：基本・実施設計（沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討） 平成 29・30 年度(予定)：建設工事・開館準備（沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討） 平成 31 年度(予定)：開館</p> <p>○合意形成の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 国指定史跡として取り組む方針と関連施設整備の庁議での決定、教育委員会による検討の積み重ねを経て、地権者への説明会を行い、概ね国指定範囲及び博物館用地の同意が得られた。これを受けて、博物館及び駐車場の位置と用地確保の方針が庁議で決定された。 <p>○維持管理の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 維持管理費用は未定 	

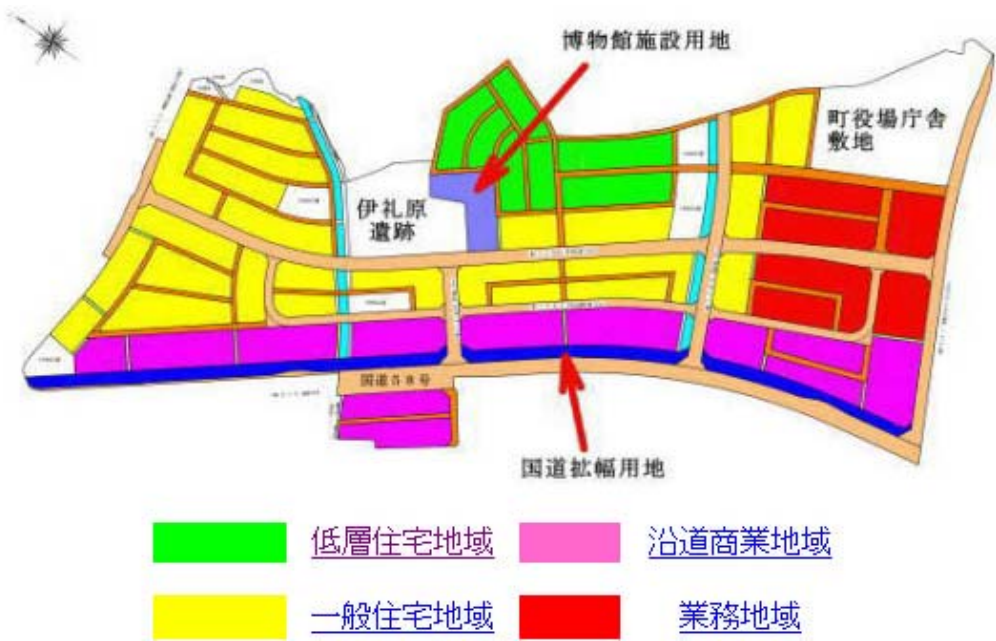
出典等：文化庁国指定文化財等データベース、伊礼原C遺跡保全整備基本構想策定業務報告書（北谷町 平成 17 年 3 月）、北谷町立博物館（仮称）基本構想（北谷町教育委員会 平成 25 年 6 月）、史跡『伊礼原遺跡』保存管理計画書（北谷町教育委員会 平成 24 年 3 月）、北谷町ヒアリング

図 伊礼原遺跡位置図



出典等：北谷町提供資料

図 キャンプ桑江北側地区土地利用計画図



出典等：北谷町ホームページ

イ 県内で文化財をまちづくり・観光振興等に活かしている事例

<p>地区名</p>	<p>勝連城跡（うるま市）</p>	 <p>写真 勝連城跡</p>
<p>文化財の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勝連城跡は、勝連半島のほぼ中央の丘陵にあり、自然の地形を巧みに生かして築かれた城である。 ・琉球王国の王権の安定過程で最後まで国王に抵抗した有力按司である阿麻和利の居城である。築城は13～14世紀に遡る。 ・昭和47年に国指定史跡に指定され、平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして、首里城跡等とともにユネスコの世界遺産に登録された。 	
<p>事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和51年に「史跡勝連城跡保存管理計画書」を作成し、翌52年から、国指定史跡勝連城跡保全修理事業として、城郭内の整備が開始され現在も修復中である。 ・勝連城跡及びその周辺一帯において、観光・文化振興及び地域活性化等に資する複合的な機能を集約させたエリアの創出を目指し、平成24年度より沖縄振興特別推進交付金事業を活用して、城跡周辺の整備・活用の検討が行われている。 	 <p>写真 専門部会の様子</p>
<p>事業の特徴</p>	<p>○整備手法・事業費等</p> <p><u>史跡の発掘・保存・整備</u> 昭和52年度～平成32年度（予定）：1,122,750千円（文化庁事業 8割補助）</p> <p><u>用地取得(史跡区域内)</u> 平成4年度～30年度（予定）：予定面積 131,774.68㎡ 1,564,401千円（文化庁事業 8割補助）</p> <p><u>史跡の周辺整備</u> 平成15年度～17年度：駐車場・休憩所の整備 300,872千円 平成24年度：基本計画の策定等 14,150千円（沖縄振興特別推進交付金事業） 平成25年度：基本設計基礎調査等 8,021千円（沖縄振興特別推進交付金事業） 平成26～31年度（予定）：複合的な文化観光拠点の整備に向けて継続実施 （沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討） 平成27～31年度（予定）：史跡区域外の整備箇所の用地取得（沖縄振興特別推進交付金事業の活用を検討）</p> <p>○合意形成の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の保存修復の検討体制として、整備委員会を設置し、県・文化庁と調整しながら行っている。平成17、18年度には地権者への説明を行っている。 ・また、周辺整備の計画策定にあたっては、市民ワークショップ、庁内の総合調整を行う策定幹事会、外部学識者等による諮問機関である策定委員会、市関係課職員から構成されるプロジェクトチーム会議、市職員及び市民で構成される専門部会等、様々な組織で検討が行われている。周辺整備に関する住民説明会が平成25年度から始まっており、合意形成については、5年間程度での完了を目標としている。 <p>○維持管理の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定範囲はうるま市教育委員会が維持管理を行っており、草刈りのため150万円/年度かかっている。また、地域住民による清掃ボランティアも行われている。 ・休憩所は、うるま市観光物産協会に管理委託をしており、年間約7,450千円かかっている。 	

出典等：文化庁ホームページ、うるま市観光振興ビジョン（うるま市 平成19年3月）、うるま市ホームページ、沖縄県ホームページ、うるま市ヒアリング、勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業 第1回住民説明会資料（うるま市 平成25年6月）